

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100177		
法人名	ライフサポートNEO		
事業所名	グループホーム きぼう神埼センター		
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴1342番地1		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成27年 1月20日	外部評価確定日	平成27年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年同様、会社取り組みを掲げているスリー宣言を持続し取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none">1、入社、退社時に全利用者様・全職員と挨拶、握手運動2、1日中、車椅子での生活をしない、脱車椅子作戦。3、認知症改善・予防プログラムの実施宣言。 <p>1、はほぼ定着しており、入居者様も挨拶を待たれているような状態になっています。</p> <p>2、車椅子の方が1名おられ、ほぼ寝たきりの状態で食事、おやつその延長上でのレクを参加されています。車椅子がすぐ移動出来るのでイスへの移動に少し抵抗があられるようで、少しずつお声掛けを行なっています。</p> <p>3、レクリエーションにほぼ全員参加されており、ラジオ体操、リハビリ体操を午前、午後と実施しております。入居者様のレベルに合わせた貼り絵や童謡唱歌、ボール遊びなどを実施しながら昔話を織り込み認知症の進行を緩徐に出来ればと努力しております。</p> <p>また、入浴時に本人様に着替えを選んでいただき季節感を感じていただくように努力しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>民家に囲まれ、静かな環境の中にある施設は、バリアフリーの設計で明るい建物である。併設されていた宅老所が、現在改修中で新しい地域密着型のサービスとして計画されており、入居者にとっては、顔見知りの方が利用することも考えられる。また、職員のスキルアップのためチャレンジシートが活用されている。管理者も日常のケアに従事しながら、職員の育成に配慮している。事業所の特色である毎日のリハビリを兼ねたレクリエーションでは、運動や新聞折なども交え、リビングで過ごす時間を多くとっている。その事によって、入居者の様子の変化に気付き易く、より細やかなケアへとつながっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の調整会議や社内研修時に全スタッフでの唱和を行い内容を理解出来るように心がけている。また、チャレンジシートを基に個人の評価を本人、上司評価を行いそれに沿った面談を行い理念の共有を図るようにしている。	法人の理念及び事業所独自の理念を持ち、それが事務所内や玄関に掲示されている。スタッフの調整会議や研修時に唱和が行われている。また、チャレンジシートを基に4ヶ月に一度本人・上司による評価を行い、職員全員で理念を共有し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での月番を行い、地区の回覧板、配布物などを配布している。また、中学校からの職場体験などの受け入れを行い、地域の中の施設と賭しての交流に努めている。	地域の自治会に加入しており、配布物や回覧板による行事の広報で、年末のしめ縄作りなどに利用者も参加している。地域の清掃事業には職員が参加し、日常的な交流ができるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験や高校の福祉課の実習、介護資格の学校の学生の受け入れなどを行い認知症の方の理解を深めて頂くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、包括支援センターの職員さんや地域の方々、ご家族様のご意見をお伺いし、苑で実施できるものを取り入れるようにしている。	運営推進会議は、地元区長・地域包括支援センター職員・入居者家族の出席で、2ヶ月に1回開催され、事業所での行事報告や意見交換がなされ、双方向的な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	神崎市で開催されているケアネット神埼への参加を行い意見交換などを行なっている。	地域包括支援センターとは運営推進会議などの参加もあり、事業所の実情等伝えている。行政の参加もあるケアネット神埼の研修会にも参加し、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自施設ばかりでなく会社全体で取り組みを行い、身体測定の意味などの理解をスタッフが深めてもらうようにしている。	職員は、法人全体の研修会や、事業所での勉強会を通して、拘束のない支援に取り組んでいる。日中玄関の施錠はされず、自由に出入りが出来る。玄関がトイレと隣接し、リビングから死角となっているが、職員の見配りで見守りができている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体の研修や自施設での調整会議などで勉強会を行い、虐待の意味の理解が出来るよう事例を上げながら取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の実施はおこなっていますが、現在該当する辞令はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容の説明や解約などについての説明を行い、疑問点などがなければ確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にご家族様とのお話の時間を作っていただいたり、地域運営推進会議や苑行事への参加時などにお話をお伺いし反映できるものは反映できるように努めている。	重要事項説明書に苦情受付機関を明記し、家族に説明している。玄関には、意見箱も設置されている。また、日頃の面会時や運営推進会議の出席の時には声掛けを行い、意見等が出し易い雰囲気づくりに努めている。出された意見は、速やかに運営に反映できている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの面談を行い、スタッフの意見の引き上げや提案などを促し施設運営に反映できるように努めている。	管理者は、職員が日々の業務中で、自由に意見を出せる雰囲気作りをしている。また、月1回全スタッフと面談を行い、出された意見や提案は、運営に活かせるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートの活用を行い、スタッフの目標をスタッフが設定し、その目標にどの程度クリアできているか月1回の自己評価を行なうようにし、面談時にアドバイスを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、社内研修、スキルアップ支援制度の導入、月1回の調整会議での勉強会の実施を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神崎市で行なわれているケアネット神崎の出席を行なう事で介護事業者同士の意見の交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様及びご家族様への面談を行い、お話を伺いしながら関係作りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込書を書いていただく時に、現在のお困りごとや不安、要望などをお伺いするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に色々なサービスがあることを必要に応じてお話をさせて頂き、他施設への見学も進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ食事を一緒にテーブルで頂いたり、毎日レクリエーションを一緒に行なったりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に施設内での生活状況をご家族様にお伝えしたり、面会が遠のいておられるご家族様へは電話で状況の報告を行なったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けず、面会者がいつでも来ていただけるように心掛けている。知人の方が見えられたときは、自室で談話して頂くようにお声掛けを行い自室で過ごして頂くようにしている。	知人の面会時には、お茶の接待を行い、ゆっくり過ごせる雰囲気づくりをしている。入居者も長期入所で高齢化し、外出意欲も少なくなっている。、買い物など入居者から要望があればできる限り対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後のおやつ後はレクリエーションを実施、他入居者様と一緒に童謡を歌われたりボール投げ、貼り絵などを行なわれ、出来る所出来ないところをお互いに支援されている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	直気入院されている方へのお見舞いやご家族様へ状況確認のお電話を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談時のご要望や入居後の日常の会話などから、ご本人本位の支援を行うように心掛けている。	食事、レクリエーション、入浴時など、日常のケアの中で、一人ひとりとゆっくり話し、思いや意向の把握に努めている。思いや意向の把握が困難な入居者からは、寄り添いながら声かけをし、表情や動作を見ながらスタッフで検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や以前利用されていた事業所などから聞き取りを行い把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し記録に残し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様のご意見やご要望をお伺いしながら、月1回の調整会議でスタッフの意見を聞きながら作成している。	本人や家族に聞きとり、スタッフ会議で出された意見を基に、計画作成担当が入居者全員の介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、現状に即したものになるよう努めている。また、入居者の状態変化に合わせ、介護計画の見直しをその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や月間報告書、申し送りなどで状態の把握を行い必要に応じた介護計画の見直しの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のご家族にサービスの情報を提供し、色々なサービスがあることを理解して頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などへの参加は出来る限り参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかりつけておられた病院への受診を行なって頂いている。	入居者や家族の意向を大切にし、事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院は、家族の送迎を基本としているが、緊急時などは職員で対応している。家族送迎時や職員対応時、どちらも受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師も兼務している為、管理者自身の気付きやスタッフの気づきなどを総合してご家族様へ連絡し受診などの相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との連絡を行い面会時の状況をお互いに理解しながら、退院に向けての意見交換を行なっている。また、Drへ状況を確認しながら自施設での受け入れが可能かを検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化された場合やターミナルの件についての説明を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、入居契約時に入居者・家族に「重度化した場合及び看取りにおける対応に関する指針」の説明をし、同意を得ている。これまでに看取りの実績はないが、協力医療機関との連携により、安心できる終末期の支援体制が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の調整会議はスタッフ全員参加で行なっており、勉強会を実施し、急変や緊急時の対応が出来るように指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に避難場所の確認や避難訓練の実施を行っている。	昼夜を通じた避難訓練や消火訓練が消防署や火災報知器会社などの指導の基、入居者も参加し計画的に実施されていたが、今年度はまだ実施されておらず3月に予定されている。	災害時は、人的支援が必要となるため、地域の協力体制は必要と思われる。地域の人々の参加や協力を得た避難訓練を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社全体の研修会や施設での調整会議時に 接遇や介護従事者の心得などの勉強会を実施している。	個人情報利用目的を明確にし、契約時に入居者・家族に説明して同意を得ている。職員は、法人全体の接遇研修に参加し、入居者本人の人格を尊重した言葉かけや、口調に注意した支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望をお伺いし、支援できるものは出来る限り支援させていただいている。例えば入浴時の衣類の選択などを自室にご案内し衣類を見てもらい選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のご要望をお伺いし、入居者様のペースに合わせた対応をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様やご家族様のご要望をお伺いし、カットやカラーなど訪問理美容を活用しながら対応させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭気などをお手伝い程度にお願いしている。食事は入居者様とスタッフが同じテーブルと一緒に頂いている。	法人全体の厨房で栄養士による献立が作成され、調理されており、事業所内ではご飯、汁物のみ調理されている。入居者も高齢化し、準備や後片付けに協力的な利用者は少ないが、時々おやつ作りで入居者の要望が多い「おはぎ」をいっしょに作り楽しんでいる。また、弁当を持参しピクニックに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認や水分量の確認を行い、必要に応じてかかりつけ医への相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者さまの状態に応じた口腔ケアの支援をさせて頂き、必要に応じて口腔内の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は、苑トイレを使用していただき、時間を確認しながらご案内のお声掛けを行い、必要に応じて見守りや支援を行っている。	排泄チェック表にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立支援につなげている。穏やかに声かけが行われ、スムーズにトイレに誘導が出来、日中は布パンツで過ごせる支援が出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取を毎日行っていただいたり、レクリエーション時に身体を動かして頂くようにお声掛けを行なっている。また、苑廊下の歩行練習や苑庭の散歩などを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様に入浴の希望をお伺い入っていただくようにしている。入浴の拒否のある方には声掛けのタイミングを見ながら入っていただくようにしている。日曜、祝日に関係なく一年365日入浴支援を行っている。	基本的に2日に1回の入浴としているが、希望があれば何時でも入浴できる。入浴を嫌がられる入居者には無理強いせず、日にちを改めたり、更衣する衣類を自分で選んでもらい入浴意欲を高める工夫を行っている。時には入浴剤を使用し、「神埼温泉」としながら入居者が楽しく入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さまのご希望で、自室で休養されたり、ホールで過ごされたりされている。夜間帯も消灯時間はなく希望される時間に休んで頂いているが、あまり遅くまで起きられ翌日の活動に支障があると思われるときは、お声掛けを行い休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が受診された場合は受診報告書を記載し、スタッフ全員が内容を確認するようにしている。また、会議時に必要な事項は説明を行い理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さまの生活歴や趣味をお伺いし、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に1回お買物デイ時にご希望の方にスタッフと一緒に買物に出かけていただくことや、季節感を感じていただけるように苑行事を計画し全員で外出して頂くように計画実行している。	現在は、工事中で出来ていないが、天気の良い日は、敷地内のホームと隣接の施設の前の広場を散歩されていた。年間を通し、四季折々の季節感を味わってもらうためドライブなど出かけている。今年の初詣は、入居者全員参加することが出来た。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金などはないが、お買物デイの時に入居者様にお金の支払いを行なって頂く時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さまのご要望があれば電話や手紙を書いていただくように支援させていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の茶の間と同じような空間になればと考えながら支援させていただいている。ホールのソファでゆっくり過ごされる方が多い。	ホーム内は、陽射しが入り明るくゆったりしており、入居者は自由にのんびりとくつろいでいる。24時間換気がなされており、室内に不快な臭いが発生しない様に気を付けている。また、室温計を足元に設置し入居者にとって快適な室温になるよう心がけている。玄関には椅子が設置され、休憩できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルとイスのほかにソファを置き入居者様がゆっくりされるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で過ごされる事が少ない為か、自室に本人様が使い慣れた物などの持ち込みは少ない。	管理者は、入居時に使い慣れた馴染みの物の持ち込みを勧めている。居室は使い慣れた筆筒が設置され、人形や写真が飾られたり、その人らしい部屋づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを使用しながら自力歩行に向けた支援を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない